

2024 年 5 月 28 日
香港

第 33 回アジア船主協会総会 プレスリリース
“Asia Shipping, Greener Together”
(アジアの海運を、ともにグリーンに)
主催 香港船主協会

〈日本船主協会事務局試訳〉

アジア船主協会（ASA）は、2024 年 5 月 28 日に第 33 回年次総会を香港船主協会の主催のもと香港で開催し、正会員と賛助会員あわせて 200 名以上が参加した。本会合では、海上安全、海上労働力、脱炭素化を含む様々な課題と制約に焦点が置かれた。



ASA のアンガド・バンガ（Angad Banga）会長は、すべての会員に対し年次総会への参加を歓迎し、「ASA 年次総会は、アジアの船主コミュニティの利益を促進することを目的として毎年開催される地域イベント。さらに、今年は“Asia Shipping, Greener Together”をテーマに、2024 年国際海運フォーラム（2024 International Shipping Forum）を開催できることを誇りに思う」と述べた。ASA は光栄にも、国際海事機関（IMO）の事務局長をはじめとする多くのゲストや講演者を迎え、グリーン燃料、新技術、船員訓練や開発、規制遵守など、重要なテーマについて、共に検討した。

紅海における海上の安全に係る警戒を呼びかけ

ASA 航行安全・環境委員会（SNEC）は、紅海における地政学上の緊張の高まりや、海賊および武装強盗による脅威の再燃を受け、海上保安対策の重点化を図るよう海運業界に呼びかけた。ホーシー派によるアフリカ沖での攻撃の急増は、船舶の運航に重大な脅威をもたらし、乗組員の生命と本船を危険にさらしている。地政学的な緊張の高まりを受け、航行船舶の護衛を目的とした紅海周辺への軍事プレゼンス・哨戒活動の強化がなされている。ASA はこうした取り組みを歓迎し、諸課題に効果的に対処するためには、各地域の関係者並びに国際パートナーとの連携が重要であると強調した。紅海および周辺海域における航行安全と保安の確保は、船員の生命、船舶、および円滑な世界貿易を守る上で不可欠である。ASA は、強化された海上の安全対策の必要性を訴える活動を続ける方針であり、同時に海運業界に対し、多様化する脅威への警戒を怠らないよう呼びかけた。

環境に配慮したスマート SHIPPING 移行への中核は船員が担っている

ASA 船員委員会（SC）は、環境への意識がもはや単なる話題ではなく義務となる一方、かつて夢のようであったスマート SHIPPING が今や現実のものとなりつつあることについて議論を行った。今後、海事技術と環境配慮型の技術革新、近い将来予見される移行に伴い、船員の資格や知識ならびに技能もそれに合わせて変化することが想定される。海運セクターの成功は常に優秀な船員に大きく依存してきた。従って、ASA はアジアの海運関係者に対し、船員に高度な教育を提供し、心身の健康と充実に配慮し、キャリア開発の機会を提供する準備を整えるよう呼びかける。

船員の福利厚生と船員への不当な犯罪化および訴追について

ASA 船舶保険・法務委員会（SILC）は船員への不当な犯罪化および訴追に関して深刻な懸念を表明した。船員がとりわけ船内で違法薬物が発見された際に、犯罪の嫌疑がかけられ、寄港先で拘留される事案が増加している。殆どの事案において、当該船員はそれら薬物やその他違法な物品が船内に隠されていたことを認識していない、或いは違法な取引等に関与していないことが証拠として示されているが、船員がしばしば不当な拘留や刑事訴訟を受ける場合があり、船員に対する公正な処遇と適切な法的手続きの確保が急務である。また、ASA は海難事故後の不当な刑事訴追についても非難を表明している。厳格な安全手順と国際規則の遵守にもかかわらず、海難事故後において船員はしばしば不当に身代わりとして法的手続きの対象となっている。このような不当な処遇は、海事人材の士気を低下させるだけでなく、海事産業全体の健全性と効率性を著しく脅かすものであるため、ASA は船員の権利を保護し、不当な犯罪化や訴追を防止するための包括的な改革を要求する。併せて ASA は、各国政府、海事機関および関係するステークホルダーに対し、船員への正義の原則と適切な法的手続きを守る為の公正かつ透明性の高い法的枠組みを採用するよう唱えている。

持続可能なグローバルサプライチェーンの実現に向けて

ASA 海運政策委員会（SPC）は、乗組員の安全が最優先されるべきであり、紅海における地政学的緊張の高まりやパナマ運河による渇水が継続しているなか、航海日数の増加を伴う航路変更はやむを得ないと述べた。業界の GHG 排出量の更なる削減にも取り組まねばならないジレンマに直面するなかで、ASA はパナマ運河庁に対し、（渇水対策として）通航隻数制限措置が適用されている状況下においては船種間の公平な通航（予約）機会を確保するとともに、運河利用者の効率的かつ環境に配慮された航海計画の策定を可能とすべく、短・中・長期的な渇水対策の予見可能性を求めていくことに合意した。これらの目標を実現するため、ASA は、業界が一丸となり、関係当局との定期的な対話を求めていくことも確認した。さらに、欧州委員会と英国政府が船腹共同配船（コンソーシアム）に対する独占禁止法適用除外制度の廃止を最近決定したことを受け、ASA は、同制度が GHG 排出量の削減のみならず、より多くの寄港地に配船する定期船サービスの質の向上にも資する効率的な運営に不可欠であるため、他の国々でその維持を求めるべく必要な措置を講じていくことも再確認した。

香港条約

香港条約が 2025 年 6 月 26 日に発効する。このことは、全世界での安全かつ環境に優しいサプライサイクル推進に向けた重要な一里塚となる。ASA としては、香港条約認証ヤードの優先利用を呼びかける、との長期方針を推進強化するとともに、関係国のヤードにおけるインフラ設備向上と、香港条約に適合した水準への施設改善を求めることとしている。また、香港条約とバーゼル条約の間の不一致を解決する必要がある、香港条約を遵守した結果、バーゼル条約により罰せられることのないよう担保されることが重要である。ASA はまた、既存の地域規制である EU サプライサイクル規則が、香港条約の発効前に適切に調整されることを期待する。ASA は今後も環境に優しいサプライサイクルの促進を通じ、世界の環境保全に貢献すべく、内外への意見発信を続ける。



第 33 回 ASA 年次総会は、クック諸島船主協会（CISOA）の加盟申請を正式に承認した。CISOA は 2024 年 6 月 1 日付で ASA の正会員となる。

本総会において、ASA 副会長で ASEAN 船主協会連合（FASA）会長のカルメリタ・ハルトト（Carmelita Hartoto）氏が第 34 代 ASA 会長に就任し、ASA は国際的な海運コミュニティの中で認知度を高めており、クック諸島船主協会（CISOA）が ASA の正会員となったことを喜ばしく思うと述べた。

また、クック諸島船主協会（CISOA）の CEO であるエレノア・ロイ（Eleanor Keukura Roi）氏が ASA の副会長に任命された。

一方、1992年のASA創立時からのメンバーであったオーストラリア船主協会（MIAL）からASAの正会員脱退の届出が提出され、ASAは大変遺憾ではあったがこれを受理した。ASAは、MIALの長年にわたる貢献と支援に感謝するとともに、MIALが将来ASAに復帰することを期待した。

今回のASA年次総会は2025年5月20日にバリ（インドネシア）で開催される予定。

【本プレスリリースの問合せ先】

ASA 事務局 Senior Manager Dylan Ow

電話：+65 6325 4737

Email： information@asa.org.sg / Website： www.asianshipowners.org

【ASAについて】

・アジア船主協会(ASA)は、中国、クック諸島、香港、日本、韓国の船主協会およびアセアン諸国*の船主組織によって構成されるアセアン船主協会連合(FASA)を正会員として構成される組織で、その目的は、アジア船主業界の利益促進。

*ブルネイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、ベトナム

・当該年次総会以降、次の年次総会までの間は、以下5つの常設委員会により継続的活動が行われている。

- 船員委員会（SC：Seafarers Committee）

- 船舶保険・法務委員会（SILC：Ship Insurance and Liability Committee）

- 航行安全・環境委員会（SNEC：Safe Navigation and Environment Committee）

- 海運政策委員会（SPC：Shipping Policy Committee）

- シップリサイクリング委員会（SRC：Ship Recycling Committee）

・ASA加盟船主および運航業者は、推定で世界商船船腹の約50%を支配・運航している。



●ASA 会長会議 出席者集合写真（右から 4人目が明珍会長、2人目が森重理事長）



●ASA 会長会議の様子

（左写真）会場全体の様子

（右写真）JSAからの出席者 奥から3人目が明珍会長、4人目が森重理事長



●ASA 第 33 回年次総会 出席者集合写真



●ASA 第 33 回年次総会 会場の様子



●JSA からの総会出席者 左から 明珍会長、大谷理事、森重理事長



●JSA からの総会出席者の様子



●ASA 総会にて、各委員会の活動報告をする ASA 常設委員会代表者
 (左写真) ASA SRC 副委員長の廣瀬副会長
 (右写真) ASA SPC 委員長の土屋副会長



●ASA 総会にて、活動報告をする園田 ASA 事務局長



●総会当日に開催された ASA SPC-SNEC 共同会合の出席者集合写真



●International Shipping Forum (ISF) で基調講演をする
ドミンゲス IMO 事務局長（左写真）とプラッテン ICS 事務局長（右写真）



●園田 ASA 事務局長（左）とドミンゲス IMO 事務局長（右）



●ISF のパネルディスカッションの様子



●ISF のパネルディスカッションでパネリストとして登壇する土屋副会長



●ISF 基調講演・パネルディスカッションの登壇者 集合写真



●ASA 総会出席者首脳 集合写真
 (右から 4 人目が明珍会長、7 人目がバンガ ASA 会長)



●ドミンゲス IMO 事務局長と談笑する明珍会長



●今次総会を主催する香港船主協会のチャン事務局長らと
 (中央左が明珍会長、中央右がチャン事務局長)

28 May 2024
Hong Kong

Press Release

Asian Shipowners' Association (ASA) 33rd Annual General Meeting Hosted by **Hong Kong Shipowners Association** Hong Kong

“Asia Shipping, Greener Together”

The Asian Shipowners' Association (ASA) held its 33rd Annual General Meeting (AGM) in Hong Kong on 28 May 2024. The meeting was hosted by the Hong Kong Shipowners Association (HKSOA) and attended by more than 200 representatives from the ASA member associations. The focus of the meeting was on the challenges and constraints including safety at sea, manpower at sea and decarbonisation at sea.



ASA Chairman, Mr Angad Banga, welcomed all members to the AGM. He said, “The ASA AGM is the premier annual regional event dedicated to advancing the interests of the Asian shipowning community. This year, we are also proud to host the 2024 International Shipping Forum under the theme of “Asia Shipping, Greener Together.” We were honoured to welcome the Secretary-General of the International Maritime Organization (IMO), along with many esteemed guests and speakers. Together, we explored critical topics such as green fuels, new technologies, training and development, and regulatory compliance.

Calls for Maritime Security Vigilance In The Red Sea

The ASA Safe Navigation and Environment Committee (SNEC) calls for the shipping industry to prioritise maritime security, in light of the heightened geopolitical tensions and renewed piracy and armed robbery threats in the Red Sea. The surge of Houthis attacks off the African coasts presents a significant threat to maritime operations, endangering the lives of seafarers and the integrity of vessels. Geopolitical tensions have led to increased military presence and patrols in the Red Sea, aimed at safeguarding vessels navigating through the area. The ASA welcomes these efforts and emphasises the importance of collaboration among regional stakeholders and international partners to effectively address these challenges. Ensuring the safety and security of navigation in the Red Sea and surrounding areas is essential to protect the lives of our seafarers, our vessels, and to keep global trade going. The ASA remains committed to advocating for enhanced maritime security measures and calls on the shipping industry to remain vigilant in the face of evolving threats.

Seafarers are at the core of maritime transition towards green and smart shipping

The ASA Seafarers Committee (SC) discussed that environmental awareness is no longer a conversation but an obligation, meanwhile smart ships that once looked like a dream are now becoming a reality. With the maritime technological and environment friendly innovations and transitions to come in the foreseeable future, seafarers' competencies and skill sets are expected to change accordingly. The shipping sector's success has always been heavily dependent on high-caliber seafarers. The ASA therefore calls on maritime stakeholders in Asia to get prepared to offer seafarers with an upskilled education, care for their physical and mental health and well-being, and provide opportunities for their career development.

Crew Welfare, Unfair Criminalization, and Prosecution of Seafarers

The ASA Ship Insurance and Liability Committee (SILC) expresses its deep concern over the unfair criminalisation and prosecution of seafarers. Seafarers are increasingly being detained in ports under suspicion of crimes, particularly when drugs are found on ships. The evidence suggests that in most cases, seafarers are quite unaware of the concealment of drugs or other illegal items on board their ships and have no involvement in the illegal operations. Yet, they often face unjust detention and criminal charges, highlighting the urgent need for fair treatment and due process. The ASA also condemns the unfair criminal prosecution of seafarers in the aftermath of maritime casualties. Despite stringent safety protocols and adherence to international regulations, seafarers are often unfairly scapegoated and subjected to legal proceedings following accidents at sea. Such unjust treatment not only undermines the morale of maritime personnel but also poses a significant threat to the overall integrity and efficiency of the maritime industry; thus the ASA calls for comprehensive reforms to ensure the protection of seafarers' rights and to prevent their unjust criminalisation and prosecution. The ASA urges governments, maritime organisations, and relevant stakeholders to adopt fair and transparent legal frameworks that uphold the principles of justice and due process for seafarers.

Efforts in achieving sustainability of the Global Supply Chain

The ASA Shipping Policy Committee (SPC) said that the safety of crews on board vessels should be the highest priority and the decision to reroute with extra days was inevitable under the heightened geopolitical tensions in the Red Sea area and the continued water shortage at the Panama Canal. Confronted with the dilemma to also address further reductions of GHG emissions from shipping, the ASA agreed to seek to secure from the Panama Canal Authority a fair allocation between the different types of vessels regarding reservation slots whilst restrictive measures were in place as well as a commitment to ensure the predictability of their strategic policies in response to water shortages on a short, medium and long-term basis to allow operators to develop more efficient and environmentally friendly voyage plans. To achieve those goals, the ASA shared the view that a unified approach by the industry and regular dialogues with relevant authorities should be ensured. Furthermore, in response to the recent decisions by the EC and the UK to expire their consortia regulation, the ASA reconfirmed to take the necessary actions to call for the maintenance of anti-trust immunity systems in other jurisdictions around the world as the immunity systems remain indispensable for the efficient operations which contribute to the reduction of GHG emissions and a better quality of liner services covering more ports.

The Hong Kong Convention (HKC)

The ASA Ship Recycling Committee (SRC) said that the HKC will now enter into force on 26 June 2025, which is an important milestone for safe and environmentally

friendly ship recycling worldwide. The ASA affirms that we will further promote and strengthen our standing policy of encouraging the preferential use of HKC-certified yards and urging ship recycling yards in relevant countries to upgrade their infrastructure and raise the standards of their premises to meet the requirements of the HKC. Besides that, there is a need to resolve possible conflicts between the HKC and the Basel Convention and to ensure that compliance with the HKC will not be sanctioned by the Basel Convention. The ASA also strongly hopes that the EU-SRR, a regional regulation, should be aligned with the HKC before its entry into force. The ASA will continue to speak out on our arguments for contributing to global environmental conservation by promoting environmentally friendly ship recycling.



The 33rd ASA AGM officially approved the Ordinary membership application of the Cook Islands Ship Owners Association (CISOA). CISOA will be the Ordinary Member of ASA as from 1 June 2024.

At the same ASA AGM, Mrs Carmelita Hartoto, Vice-Chairperson of ASA and Chairperson of Federation of ASEAN Shipowners' Association (FASA), was appointed as the 34th ASA Chairperson.

She commented that ASA is gaining more recognition in the international shipping community and is delighted to have CISOA come on board the ASA's Ordinary Membership.

Ms Eleanor Keukura Roi, CEO of CISOA was also appointed as the Vice-Chairperson of ASA.

On the other hand, Maritime Industry Australia Limited (MIAL) that had been one of the Founding Members of ASA since 1992, submitted its resignation notice from the ASA Ordinary Membership and ASA accepted it with many regrets. ASA thanked MIAL for their contributions and support all those years and hoped that MIAL would rejoin ASA in future.

The next ASA AGM will be held in Bali, Indonesia, tentatively on 20 May 2025

For media enquiries, kindly contact:

Dylan Ow

Senior Manager

Asian Shipowners' Association (ASA)

Tel : (+65) 6325 4737

Email : information@asa.org.sg

Website : www.asianshipowners.org

Editor's Note:

The Asian Shipowners' Association (ASA) is a voluntary organisation of the shipowners' associations of China, Cook Islands, Hong Kong, Japan, Korea and the Federation of ASEAN Shipowners' Associations comprising shipping associations of ASEAN countries.

The aims of the ASA are to promote the interests of Asian shipowners.

Between ASA AGM meetings, the ongoing work is carried out by five Standing Committees:

Seafarers Committee (SC)

Ship Insurance and Liability Committee (SILC)

Safe Navigation and Environment Committee (SNEC)

Shipping Policy Committee (SPC)

Ship Recycling Committee (SRC).

It has been estimated that ASA shipowners and managers control and operate around 50% of the world's cargo carrying fleet.
